

江東区協働事業提案制度 平成29年度実施事業報告書

江東区で実施している協働事業提案制度で、平成28年度に採択され、平成29年度区と協働で実施した事業について、実施団体より受けた事業報告および江東区区民協働推進会議委員からの意見を報告します。

[目次]

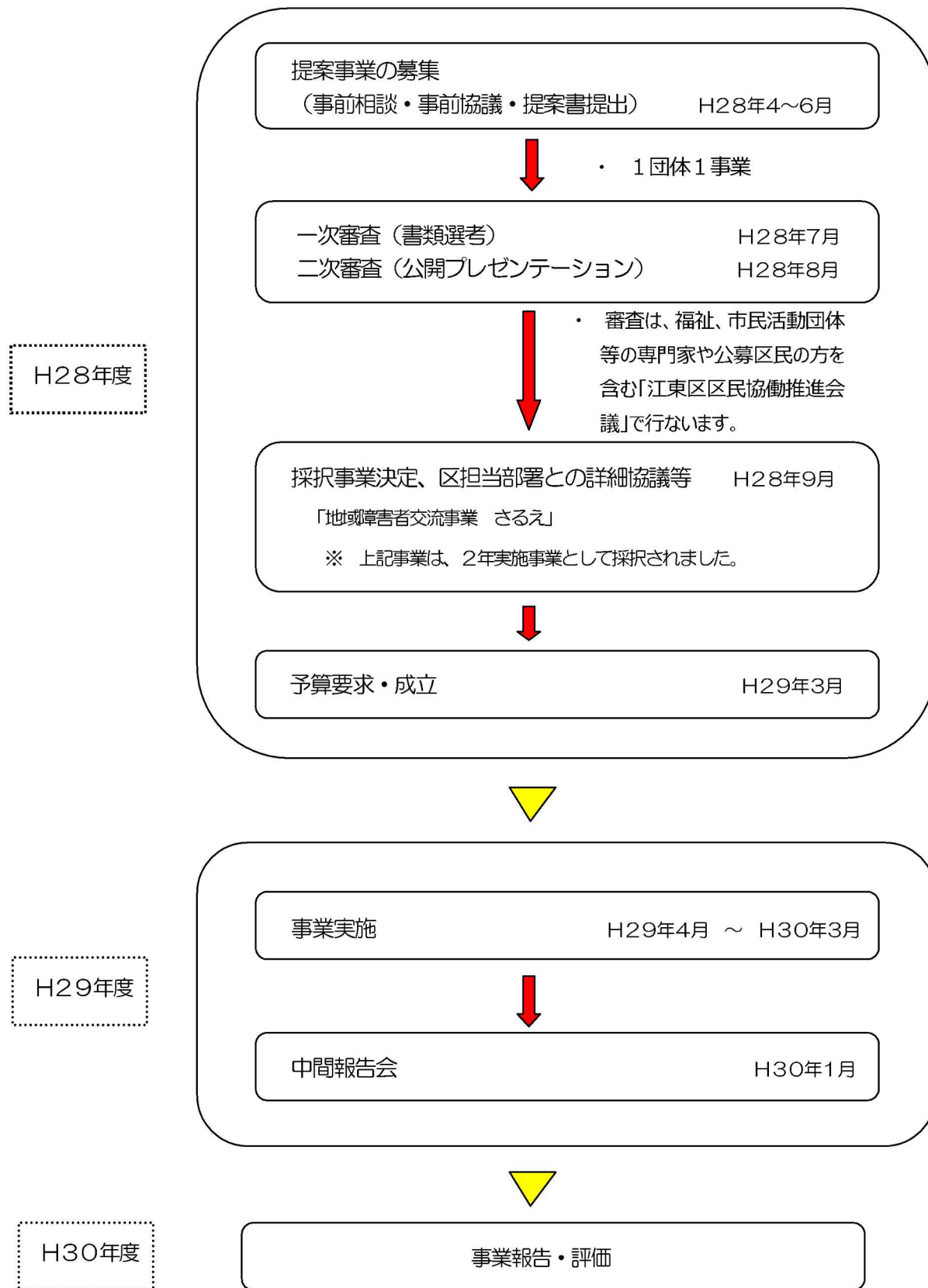
1	江東区協働事業提案制度概要	1
2	江東区区民協働推進会議委員名簿	2
3	協働事業結果報告書	3
	地域障害者交流事業 さるえ（2年事業・1年目）		
4	江東区区民協働推進会議委員意見書	25
	地域障害者交流事業 さるえ（2年事業・1年目）		

江東区地域振興部区民協働推進担当

1 江東区協働事業提案制度 概要

地域で活動する市民活動団体等の皆さんから、区と共に取り組むことで「こんな課題を解決できる」「よりよいまちをつくることができる」といったアイデアを、協働事業として募集します。

この制度によって選考され採択された事業は、提案団体と区が協議を重ね、協働により事業を実施していきます。



2 平成30年度江東区区民協働推進会議委員名簿

◎…会長 ○…副会長

学識経験者	◎ 安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー
	大島 隆代	早稲田大学人間科学部 准教授
中間支援組織	○ 枝見 太郎	一般財団法人富士福祉事業団 理事長
区民	名取 正	公募委員
	星 明憲	公募委員
市民活動団体	中安 敬子	特定非営利活動法人マザーツリー自然学校 理事長
産業団体	石塚めぐみ	東京中小企業家同友会 江東支部 副支部長
公益活動団体	久保 雅美	社会福祉法人 江東区社会福祉協議会 江東ボランティア・センター所長
	松村 浩士	公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 管理課長
区職員	大塚 善彦	地域振興部長

平成 30年 4月 27日

江 東 区 長 宛

団 体 名 一般社団法人 江東ウイズ

団 体 所 在 地 江東区猿江2-9-5

代表者職・氏名 代表理事 高原 武

協働事業結果報告書

平成28年度江東区協働事業提案制度採択事業の実施について、次のとおり報告します。

事業名称	「地域障害者交流事業 さるえ」
事業の実施期間	平成29年 4月 1日 ～ 平成30年 3月 31日
実施事業の概要 ※詳細については「具体的事業内容」に記入し、ここでは要約して欄内に収まるように記入してください。	2020年パラリンピックの開催に向けて、障害のある人もない人も共に認め合い、共生できる社会を目指して、ボランティア育成を行なう。年6回のボランティア連続講座（講演・体験）に加え、2回のイベントを開催し、受講生が、障害のある方と実際に関わったり、イベントの企画に参画したりすることを通して、楽しみながら障害のある方への理解を深める。
具体的事業内容 ※実施時期・従事者・参加者・実績などを具体的に記入してください。詳細を別紙として提出することも可能です。	別紙にて報告

<p>事業の成果</p> <p>※この事業で取り組もうとした課題は、どこまで達成できましたか。</p>	<p>ボランティア講座では、講演だけでなく、障害のある方本人や家族の方の思いを聞いたり、障害のある方と直接関わったりしていただいた。これまで障害のある方と接したことのなかった方に、体感を通して、知識だけでなく、障害のある方をより深く知っていただくことができた。</p> <p>また、年間通して連続で参加して下さった受講生が7名もおり、企画会議に参加していただく中で、イベントの企画にとどまらず、共生社会に向けての様々な意見交換をすることができた。</p>
<p>協働の効果</p> <p>※区と協働したことによって、どのような効果が得られましたか。</p>	<p>区との協働で高い信頼性が得られ、また、区報や区のHPなどで幅広く広報していただいたことにより、多数かつ多様な層の参加者を得ることができた。参加者の中には、一般区民はもちろんのこと、福祉事業所従事者や高校生の参加もあった。また、講座参加への声かけをする中で、区内の専門学校からの、授業の一環としてのボランティア体験の依頼を受けるなど、想定外の広がりもあった。</p>
<p>2年目実施に向けた展望</p> <p>※1年目の実施を通じて気づいたこと（改善すべき点や計画の変更の有無等）を記入してください。</p>	<p>1年目の受講生に対しては、共生社会の実現に向けて、共に考え合える関係づくりをしていく。具体的には、講座終了後の振り返りや企画会議での意見交換を充実させる、1期生として講座で発言していただくなど。</p> <p>また、新たな受講生を広げるために、周知を徹底する。同時に、初めての方でも無理なく参加できるような講座の工夫をする。特に、若い方の参加を広げられるよう、以下の点に力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア体験日を学校の夏季休業中にあてるとともに、複数日から選択できるように設定 ・授業の一環としての体験学習の積極的な受け入れ ・ボランティア体験講座日以外の随時ボランティア体験の受け入れ
<p>自由意見</p> <p>※その他実施を通じて気づいたこと（新たな地域課題、参加者の声等）を記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議などで出された受講生からの意見は、主催者が気づかなかった視点が多くあり、とても参考になった。2年目の実施に積極的に取り入れていきたい。例えば、障害のある方本人や家族のリアルな思いが聞けてとても良かった。/初めて体験する活動が、1日外出だと緊張して疲れる。半日や室内での活動などの設定をした方が良い。など ・中間報告会の際に、委員の方から、「公立の小中学校に、人権教育ということはどうアプローチするか。教育委員会などの行政と連携し、学校の先生たちへの働きかけを」というご意見をいただいた。次代を担う若い層へのアプローチも課題として検討していきたい。

※ 事業の成果物（冊子等）、参加者アンケートの結果、写真など、提出できるものがある場合は添付してください。なお、ご提出いただいたものは返却できません。

— 障害のある人もない人も共に認めあい、共生できる社会を目指して —

知っていますか？

障害のこと

はじめてみませんか？

ボランティア

ボランティア連続講座 受講生募集

江東区協働事業
提案制度採択事業
地域障害者交流事業さるえ

講座日程

6月 11日 日 講演

7月 23日 日 ボランティア体験

9月 17日 日 ボランティア体験

10月 1日 日 ふれあいまつり

10月 22日 日 講演

2月 25日 日 修了式

問い合わせ・申込み

まつぼっくり子ども教室内
(担当：田中・山崎)



ADD 江東区猿江2-9-5
TEL 03-3635-6301
FAX 03-3635-3285

E-mail maturi-box@nifty.com

参加費無料

主催：一般社団法人 江東ウィズ



一般社団法人
江東ウィズ

★この講座は、江東区と一般社団法人江東ウィズが協働で行ないます。

江東区協働事業提案制度採択事業「地域障害者交流事業さるえ」
東京2020オリンピック・パラリンピックで多くの方が訪れる江東区

— 障害のある人もない人も共に認めあい、共生できる社会を目指して —

ボランティア連続講座受講生募集

「みんなで楽しい時間を過ごしたい」「仲間とスポーツや音楽を通して楽しみたい」みなさんにとって当たり前のことですが、障害のある人にとっては実現することが大変難しいことなのです。ひとりでは、自分たちだけではできないけれど、周りの理解や少しの配慮、ボランティアの存在があれば実現できることがたくさんあります。あなたもボランティア活動をはじめてみませんか。

第1回ボランティア講座

講演「障害者理解 ー共に生きる地域づくりー」



講師 丸山 啓史氏 (京都教育大学准教授)

全国障害者問題研究会常任全国委員、障害のある子どもの放課後保障全国連絡会副会長。専門は、障害者教育学。

日時 平成29年6月11日(日)

14:00～16:00(13:30開場)

会場 江東区文化センター6階第1会議室

江東区東陽4-11-3(江東区役所隣)

東京メトロ東西線東陽町駅1番出口徒歩5分

参加費 無料

申込み 6月3日(土)までに下記へ

住所・氏名・年齢・連絡先を
ご記入の上、電話またはファックス、
メールにてお申し込みください。



<主催> 一般社団法人 江東ウィズ

(本事業は、江東区と一般社団法人江東ウィズとの協働事業です)

<お問い合わせ・申込み> まつぼっくり子ども教室内 (担当: 田中・山崎)

住所 〒135-0003 東京都江東区猿江2-9-5

TEL 03(3635)6301 FAX 03(3635)3285

E-mail maturi-box@nifty.com

江東ウィズとは…

障害のある人が、地域の中で豊かに暮らすことをめざして、「障害のある子どもたちの放課後活動などを通して発達保障する事業」・「学校卒業後の地域活動の場を保障する事業」・「障害者本人及び家族への各種支援事業」を行なう団体です。



ボランティア講座 今後の予定

6月11日(日) 第1回ボランティア講座(障害者理解についての講演)

7月23日(日) 第2回ボランティア講座(体験型)
(障害者との外出やレクリエーションを通しての交流・介助体験)

9月17日(日) 第3回ボランティア講座(体験型)
(障害者との外出やレクリエーションを通しての交流・介助体験)

10月1日(日) 第4回ボランティア講座
(都立猿江恩賜公園で開催するふれあいまつりを通して、“共に生きる地域づくり”体験)



10月22日(日) 第5回ボランティア講座
(障害者差別解消法についての講演、障害者の保護者の話など)

平成30年
2月25日(日) 第6回ボランティア講座(修了式、障害者本人からのメッセージ)

※連続講座ですが、1回のみ参加も受け付けています。詳細は、お問い合わせください。

イベントおよび企画会議 今後の予定

11月19日(日) ウォークラリー開催

12月23日(祝土) クリスマスコンサート開催



※それぞれのイベント開催に向けて、事前に企画会議やうちあわせ、実踏なども行います。当日は、ボランティアとして一緒に盛り上げます。

江東区協働事業提案制度採択事業「地域障害者交流事業さるえ」
東京2020オリンピック・パラリンピックで多くの方が訪れる江東区
— 障害のある人もない人も共に認め合い、共生できる社会を目指して —
一般社団法人江東ウィズ

ボランティア連続講座開催

◆第1回ボランティア講座◆

テーマ：『 障害者理解 — 共に生きる地域づくり 』

講 師：丸山啓史氏（京都教育大学准教授）

6月11日（日）14：00～16：00 江東区文化センター6階会議室

参加者 40名

◎講演の主な内容

障害のある人が“余暇を楽しむ”ということが、とても難しい現実があります。そのように余暇が充実しにくいのは、障害があるからでしょうか？

そもそも障害とは、心身の機能の障害という意味と、社会生活を営む上で、障壁となるものすべて、という意味とがあります。「社会」や「環境」が整えられることで、障害がある人も余暇を楽しめるようになるのではないのでしょうか。

「余暇」というと、余った暇な時間という印象がありますが、障害がある人にもない人にも、必要で大事な時間です。それは、多くの研究者も、「権利」として認められるべきものと主張しています。そして、家や職場とは異なる場があることで、生活の「励み」や「世界」の広がりが生じ、仲間との活動の中で自信も育まれるなど、豊かな余暇があることが、誰にとっても必要なことなのです。

障害があっても、“学校に通いたい、働きたい、友達と遊びたい”などの願いから、これまで、学校や作業所、放課後の場が作られ、制度が作られてきました。このような活動が生まれることで、障害のある人の生活が変わるのはもちろんのこと、活動に参加する人が増えることで、障害のある人に対する理解が進んだり、地域の文化が豊かになったりします。そのような活動を支えるのがボランティアの力であり、このような活動が、地域や社会をも変えていく力となるのです。



◎受講生から寄せられた感想

- ・講演を聞き、障害者の方たちが、余暇活動に自由に参加できるような環境ではないということについて知り、いつでも自由に余暇活動の行なえる自分とは異なること、皆で集まって遊ぶだけの活動が、いかに重要だったのかということ、初めて認識できた気がしました。
- ・家の中や職場にしか居場所がなかった人たちが、余暇を求め、楽しみを求め、活動ができるようになった。完全ではないが、楽しみの場が広がってきたように感じました。でも、それは、支える人がいてはじめて成り立っている、極めて不安定なことでもあると感じました。映像で、子どもたちの笑顔をたくさん見ました。その笑顔も、ボランティアという存在があってはじめて広がることを感じました。
- ・障害者の方々が、社会生活を営む上で、暮らしにくかったり、息苦しく感じられるのは、制度や観念など社会が整っていないことがあると私も思いましたが、その社会を構成している人々は、それぞれの個人個人。自分も含めてだと思うので、健常者一人ひとりの自覚を少しでも前向きな考えに変えられれば良いと思います。
- ・学齢期の余暇活動は、行き場の選択肢が増えてはいるが、就労後の余暇の過ごし方は、ほとんど充実していないのが現実。「エンジョイクラブ」に集中し、満員に近い状態。障害の重い人は、さらに厳しいと思う。「行きたい時」に「行きたい所」「やりたいこと」ができるような社会に一步ずつ近づいていってほしいと願っています。
- ・障害のない人が、ある人を支えるという一方的なものではないという先生のお話が良かった。社会的障壁・社会の側が整っていないということをどう解決していくか、非常に難しい課題だと感じた。

◆第2・3回ボランティア講座◆

体験型講座：『ボランティア体験をしよう！～エブリに参加』

※成人・青年の会エブリ⇨江東ウィズが行なう障害のある青年の余暇活動

アドバイザー：荒井聡氏（発達相談員）、佐田光三郎氏（元特別支援学校教諭）

第2回 7月23日（日）10：00～17：00 まつぼっくりの家

参加者 28名（エブリの活動に参加した青年15名、受講生7名、

協働事業担当者3名、ボランティア体験指導係3名）

第3回 9月17日（日）10：00～17：00 まつぼっくりの家

参加者 20名（エブリの活動に参加した青年10名、受講生3名、

協働事業担当者3名、ボランティア体験指導係4名）



◎体験の主な内容

10:00 打ち合わせ。1日の活動の流れや注意事項、担当につく青年の情報等の伝達。

10:30 活動開始。

始めの会。一人ひとり名前を呼び、体調等を全体で確認。

11:00 出発。(第2回)都営新宿線で九段下～科学技術館へ

(第3回)都営新宿線で森下・大江戸線で両国～江戸東京博物館へ

昼食～館内見学～おやつ

15:50 終わりの会～保護者への引き継ぎ

16:10 振り返り

17:00 終了

※全体での振り返りの後、個別の相談にも応じる。

◎受講生から寄せられた感想

- ・普段、障害者と関わることはできないので、貴重な体験でした。想像もつかず、緊張もあったけれど、教えてもらうことも多かったです。
- ・初めて障害のある人と関わるので、何が何だかわからないことばかりでした。「うんちがしたい」とトイレに行ったときは、どう介助すればいいか戸惑いましたが、行動を共にし、手をつないだり話をしたりし、ざっくばらんに心を開いていけば何でもできるんだな、普通のやりとりでいいんだなと感じました。
- ・一人ひとり違い、その人によってどう関わるか、どうコミュニケーションをとるか、細かな接し方が必要だと感じました。
- ・担当した方が初めは機嫌良かったのですが、帰りに電車を降りてからテンションが下がってきました。“もう帰るの？”という気持ちからだったなら良いけれど。博物館の中で、機嫌が良くて声が出てしまい、警備員に注意されてしまいました。わざとではなく、表現として出てしまう声などは、大目に見てもらえたらと思いました。
- ・言葉でのコミュニケーションが取れず、わからない行動が多くありました。本人が何をしたいのか、回を重ねないとわからないし、どこまで許していいのかと思う場面もありました。“楽しい”だけではなく、難しいけれどおもしろい。奥が深いと思いました。
- ・普段通り、あまり構えずに接しようと思いました。あまりしゃべらない青年でしたが、トイレに行ったときに、「うんちしたい」「自分でふけるの?」「ふける」「じゃ、待ってるね」とやり取りしたりすることができました。食事や排せつなど、普段の生活の中で、気を遣わずにやり取りし、何が好きなのか接していくうちに見つけられたらと感じました。



◎アドバイザーからの発言

受講生の皆さんは、“関係性”を大事にして関わってくださいましたね。青年たちはそのような経験を学齢期の頃から積み重ねているので、社会性が身についています。初めて関わる人だけれども、人に対する“信頼”があるということです。一緒に行動するのは初めてだけれど、とてもリラックスできていたのではないかと思います。何をしなくてもただ一緒にいるだけで楽しい、それぞれの過ごし方や楽しみ方をもっていて、“ここにいれば何かある、誰かいる”という雰囲気の良いのです。

また、受講生の中に高校生がいらっしゃって、担当した青年の方が年上だったため、彼が普段とは違う姿（“自分の方がお兄さんなんだから、しっかりしなければ”というような言動）を見せたのも、新たな関係の中から出てきたことで興味深かったです。

自閉傾向の強い方のこだわりについては、何が原因になっているのかがわからないと支援は難しいので、1日で知ることは難しいです。皆さん、青年たちの気持ちを探る難しさや社会のルールとの折り合いの付け方など、回を重ねていろいろ感じてくださっていたかと思います。ぜひ継続して、たくさんの方と関わっていただきたいと思います。

◎後日、ある受講生から、こんなメールが届きました…

「〇〇くんと一緒に行動し充実した一日を過ごすことができ、彼に感謝します。お弁当を食べたり、トイレに行ったり、地下鉄の路線図を探したり、健常者にとっては普通ですが、当たり前的事や何気ない事の中にこそ大切なものやささやかな幸せがあるような気がしました。出迎えに来られたお母さんの嬉しさや安堵した様子が印象に残っています。」

◆第4回ボランティア講座◆

体験型講座：『ボランティア体験をしよう！～ふれあいまつりに参加』

※ふれあいまつり⇒「障害児・者のゆたかな地域生活をつくる」をテーマに、1989年から毎年行なっているまつり

◎体験の主な内容

ふれあいまつりの「ソースせんべいゲーム」の売り場を担当する。受講者4名、ボランティア体験指導係1名で販売する。ウィズの会員の子たちも含め、ゲームに来た子たちとの交流を図る。会員の子もたちが担当のボランティアと手伝い体験に入るので、その子たちとの交流も図る。

